

ごっさかいといせき 五斗長垣内遺跡

所在地：淡路市 黒谷



現地説明会 提供：淡路市



再現された竪穴式住居 出典：財団法人淡路島くにうみ協会

五斗長垣内遺跡は、標高 200m の津名丘陵の西側、海岸から 3 km の播磨灘を見下ろせる位置にあり、弥生時代後期に鉄器を作っていたムラの遺跡です。

平成 13 年（2001）に遺跡が発見され、平成 19 年（2007）から実施された発掘調査で、23 棟の竪穴住居跡が発掘され、そのうち 12 棟で鉄器を作る作業（鍛冶作業）を行った可能性の高い炉跡が確認されました。また、遺跡からは矢尻や鉄片、切断された鉄細片など 75 点が出土しています。

五斗長垣内遺跡は、一つの遺跡で発見された鍛冶作業用の建物の数や大きさとしては国内最大規模です。大陸から輸入した鉄を、当時の最高技術の鍛冶技術により加工していたことを示す痕跡から、大和政権など、当時の強大な勢力により淡路島が重要な拠点として位置づけられていたという歴史を感じることができます。

【景観の特徴】

- 自然が作りだす景観
- ✓ 歴史が作りだす景観
- 生活・文化が作りだす景観
- 新しく作りだす景観

【アクセス】

神戸淡路鳴門自動車道北淡 IC から県道 123 号線を南下、車で 10 分。



地図出典：国土地理院発行 2万5千分の1地形図